

自然石積と生垣に統一された街並みと、建築協定に基づく家並みは素晴らしい生活空間を形づくっている。また、ボンネルフ方式の修景街路や法面緑化やCATVによるアンテナの一扫等、「すぐれた街並みづくり」を進めている。



岐阜県の南部に位置する可児市は、日本ラインで有名な木曾川に面し、近年名古屋市のベッドタウンとして急速

に開発が進んでおり、中でも桜ヶ丘ハイツは、市の東部丘陵地にある全面積三一六ヘクタール、計画戸数五〇〇〇

戸の大規模な住宅団地である。

ここでは建築協定が結ばれており、一区画の面積が八〇〇〜九〇坪と比較的広いうえ、全区画木曾石や揖斐石を用いた自然石積と生垣に統一され、豊富な街路樹と相まって素晴らしい生活空間が創出されている。ことに中心部においては、ボンネルフや造園的な法面緑化、さらには共同受信システム（CATV）を採用し、整然とした居住環境が形成されている。

また、住宅祭等のイベントも実施され、二十一世紀を展望した住民主体の新しい街並み、家並みのモデルとなっている。

データボード⁷⁹

- ① 岐阜県可児市桜ヶ丘、壘ヶ丘
- ② 可児市役所 ☎0574-62-1111
- ③ 316ha
- ④ 自然石積、生垣、CATV、ボンネルフ等
- ⑤ 住宅生産振興財団住宅祭